17. TPA kit の臨床的検討

中村 立子　中島 鉄夫　野口 正人
松下 照雄　小鳥 輝男　(福井医大・放)
紙谷 尚之　(同・産婦)
石井 靖　(同・放)

近年，TPA kit が改良されたので，その臨床的応用について検討した．健常人の血中 TPA 値は，32.6±20.3 U/l (mean±SD, n=105) で，男性は女性に比し軽度高値であった．90 U/l を正常上限とすると，悪性疾患における陽性率(高値)は 52% であったが，臓器特異性はなかった．良性疾患では，肝疾患，腎不全において偽陽性率が高く，血中 TPA 値の解釈には，これらの疾患の有無を考慮する必要がある．また，血中 TPA 値は，進行した悪性腫瘍患者で陽性率が高く病期をよく反映した．手術および化学療法に伴う経過観察では，血中 TPA 値は治療効果をよく反映した．さらに，TPA と CEA 値の間には相関がなく，他の腫瘍マーカーと相補的に用いうることが望ましいと思われ，臨床的に有用であると考えられた．

18. ヨード標識ガストリンに対する自己抗体を持つ4症例とその臨床的意義

野口 正人　中島 鉄夫　(福井医大・放)
青木 悦雄　飯田 泰啓　安達 秀樹
(京都大・核)
石井 靖　(福井医大・放)

血清 gastrin 値が二抗体法の RIA で異常高値を示し，charcoal-dextran を用いる一抗体法の RIA で低値を示す4例(バセドウ病，橋本病，胃癌，慢性胃炎各1例)を見いだした．^{125}I 標識 gastrin には monoiodo-tyrosine-gastrin (MIT-Gas) と diiodo-tyrosine-gastrin (DIT-Gas) があるが，全例に D^{125}IT-Gas と結合する血清蛋白を認めた．この蛋白は protein A affinity column の IgG 分画に存在し，抗体と考えられた．この抗体は Gas, MIT-Gas, MIT. DIT を認識せず，DIT-Gas を特異的に認識した．また，症例の臨床検査成績の中で，抗サイログロブリン抗体が全例に陽性であった．血清 Gas 測定の RIA で(特に二抗体法の RIA)，高ガストリン血症の診断に，DIT-Gas に対する自己抗体の存在を考慮する必要がある．

Presented by Medical*Online